

に他の生息地（特に別の水系）から再侵入することが難しいと考えられる。本種の移動分散は主に流下によるものと推測されることから、同一河川（その支流を含む）に複数の産地が残存していることが生息地の回復には重要であろう。軽微な改修工事であっても本種の生息地点を直接破壊する可能性がある場合は、事前に生息状況を把握し、その結果に基づいて環境に配慮した形で改修の検討を行うことが大切である。

一方で、なぜ本種のように移動分散能力が低いと考えられる種が広い分布域を持ち、しかも各地で得られた個体の外部形態にほとんど差異が見られないのかという点については、現段階では十分な説明ができない。今後、各地で得られた個体の遺伝的多様性を調べることにより、こうした疑問に対する答えが出るかもしれない。そのためには分布空白域での発見が重要となるため、今回紹介したような環境が近くにあるという方は是非とも採集に挑戦していただきたい。本種はほぼ年間を通して成虫が確認されているため（環境省, 2015）、時期を問わず採集できる。特に東日本での安定的な産地の発見が期待される。

## 5. 謝辞

末筆ではあるが、原稿の校閲と種の同定確認をお願いした中島淳博士（福岡県保健環境研究所）、原稿を校閲いただくとともに投稿に際してご助言を賜った吉富博之博士（愛媛大学ミュージアム）、標本写真撮影にご協力いただいた澤田研太氏（富山県）と岩田朋文氏（富山市科学博物館）に対し、心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 秋山美文, 2003. 広島県産甲虫の分布記録(7). 比和科学博物館研究報告, (42): 45-59.
- 林 成多・門脇久志, 2008a. 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 269-286.
- 林 成多・門脇久志, 2008b. 日野川上流域に生息する水生甲虫類. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 291-302.
- 市川靖浩, 2013. 矢作川水系におけるケスジドロムシの生息状況. 三河の昆虫, (60): 788-791.
- 市川靖浩, 2017. 豊田市における流水性ゲンゴロウ2種の記録. 三河の昆虫, (64): 901-902.
- 井上大輔・中島 淳, 2009. 福岡県の水生昆虫図鑑. 福岡県立北九州高等学校魚部, 196pp.
- 環境省, 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5 昆虫類. 509pp., ぎょうせい.
- 環境省, 2017. 【昆虫類】環境省レッドリスト 2017, (2017年8月3日参照) <http://www.env.go.jp/press/103881.html>
- 萱場祐一, 2013. 1.2 河川地形の特徴とその分類. pp.13-33, 川那部浩哉・水野信彦監修, 河川生態学, 講談社.
- 中島 淳, 2007. 山口県におけるセマルヒメドロムシの記録. 甲虫ニュース, (158): 21.
- Nomura, S. and K. Baba, 1961. Two New Elmids-species of Niigata Prefecture, Japan. AKITU, 10: 4-6.
- 野村 鎮・馬場金太郎, 1961. 新潟県のドロムシ類. 昆虫学評論, 13(1): 27-34.
- 緒方 健・中島 淳, 2004. ヒメドロムシ科に見られる短翅型とその生息環境. 日本陸水学会講演要旨集第69回大会新潟大会(2017年8月14日参照) ([https://www.jstage.jst.go.jp/article/jslim/69/0/69\\_0\\_157/\\_article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jslim/69/0/69_0_157/_article-char/ja/)).
- 緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.
- 鬼倉徳雄・中島 淳, 2010. 重要文化的景観地, 通潤用水の魚類相および水生昆虫相. 九大農芸誌, 65(2): 39-46.
- Satô, M., T. Ogata, J. Nakajima and Y. Kamite, 2005. Recent Records of *Orientelmis parvula* (Coleoptera, Elmidae) in Japan, with a Proposal for Conservation. Japanese Journal of Systematic Entomology, 11(1): 63-66.
- 吉富博之・白金晶子・疋田直之, 1999. 矢作川水系のヒメドロムシ. 矢作川研究, (3): 95-116.

(2017年10月12日受領, 2017年11月24日受理)

## 【短報】伊豆半島からのコモンキノゴゴミシダマシの採集記録

コモンキノゴゴミシダマシ *Spiloscapa ichihashii* (Nakane, 1956) は三重県の平倉（現在の津市美杉町に所在）から得られた1個体をもとに記載されたゴゴミシダマシ科の甲虫である。

本種は同定が容易な美麗種にもかかわらず、記録はかなり散発的で採集例はごく少ない。これまでに、本州、九州に分布することが判明している（秋田・益本, 2016）。

九州からは福岡県（Chûjô, 1968; 城戸, 2016. なお高倉（1978, 1989）の目録によれば、宗像市の沖ノ島からの既記録があるように受け取れるが、城戸（2007）は検討の結果、誤引用であるとの見解を示



図1. コモンキノゴゴミシダマシ（伊豆半島産、スケールは1 mm）。

した）、佐賀県（大塚, 1995）、宮崎県（中根, 1975）、鹿児島県（秋田・益本, 2016）から、本州からは三重県のほか京都府（水野, 1976）、和歌山県（的場, 2000; 望月, 2016）、山口県（辻, 2017）から記録されている。本州における太平洋側の分布の

東限は、知られているかぎり、静岡県の野生生物目録（多比良，2005）に掲載されていることから静岡県と考えられるが、具体的なデータをとまなう採集例を筆者は見つけることができなかった。

筆者は、以下のように、静岡県の伊豆半島で得られた標本を検しているため報告する。

1 ex., 静岡県伊豆猫越, 20. V. 1990, 露木繁雄採集, 国立科学博物館所蔵（益本コレクション中）; 1 ex., 静岡県伊豆市湯ヶ島猫越, 20. XII. 2007, 筆者採集, 保管。

2例とも同じ地域の確認例である。筆者による採集例は、クスノキ科立ち枯れの浮き上がった樹皮下で越冬中の個体だった。確認環境は、自然度の高い照葉樹林におおわれた尾根筋である。

末筆ながら、当日同地を案内してくださった遠藤千秋氏（秦野市）、情報をくださった安藤清志博士、秋田勝己氏（津市）と益本仁雄博士、多比良嘉晃氏（静岡市）、城戸克弥氏（大野城市）、標本を検する機会を与えてくださった国立科学博物館の野村周平博士に心よりお礼を申し上げる。

#### 引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 208 pp., むし社.
- Chûjô, M. T., 1968. Eine neue Basanus-Art aus Japan (Col., Tenebrionidae). Kontyû, 36(4): 398-399.
- 城戸克弥, 2007. 福岡県沖ノ島の甲虫相. KORASANA, (75): 43-64.
- 城戸克弥, 2016. 福岡県のゴミムシダマシ上科. KORASANA, (84): 85-154.
- 的場 績, 2000. 和歌山県産甲虫類分布資料 7. KINOKUNI, (58): 17-18.
- 水野弘造, 1976. 京都・芦生演習林の甲虫相(2). 月刊むし, (60): 17-18.
- 望月寛人, 2016. コモンキノコゴミムシダマシの和歌山県における採集例. 月刊むし, (550): 4.
- Nakane, T., 1956. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XIII. The scientific reports of the Saikyo University, 2(3): 164-174.
- 中根猛彦, 1975. 九州（屋久島・種子島を含む）に分布する異節群甲虫について. 国立科学博物館専報, (8): 161-173.
- 大塚健之, 1995. 多良岳中山キャンプ場周辺で採集した甲虫2種. 佐賀の昆虫, (29): 706.
- 多比良嘉晃, 2005. コウチュウ目. 静岡県環境森林部自然保護室, 静岡県野生生物目録, 107-163pp.
- 高倉康男, 1978. 福岡県のゴミムシダマシ. 北九州の昆虫, 25(1): 35-43, 3 pls.
- 高倉康男, 1989. 福岡県の甲虫相. 葦書房, 521 pp., 5 pls.
- 辻 雄介, 2017. 山口県初記録のコモンキノコゴミムシダマシを岩国市で採集. 月刊むし, (552): 61-62.

（亀澤 洋 350-0825 川崎市月吉町 32-17）

#### 【短報】東京都奥多摩町のツメボソクビナガムシの記録

ツメボソクビナガムシ *Stenocephaloon metallicum* Pic, 1932 はクビナガムシ科の日本最大種で、主に亜高山帯の針葉樹林に生息し、幼虫はダケカンバ等の白色腐朽材を食べることが知られている。成虫は秋に出現して朽木に集まるが、稀な種である（佐々治, 1985; 鈴木, 2009）。本種は本州（関東・中部山地）に分布し、関東地方では群馬、栃木、埼玉、神奈川の各県で記録されている（初宿, 2011）。筆者は東京都奥多摩町で本種を採集したので、東京都初記録として報告する。

1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原天目山, 15. IX. 2017. 筆者採集・保管（図1）。

採集場所は伐採されて開けた山頂部で、やや古めの広葉樹倒木をピーティングしたところ1頭だけ得られた。



図1. 東京都奥多摩町産ツメボソクビナガムシ。

#### 引用文献

- 佐々治寛之, 1985. クビナガムシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之（編著）, 原色日本甲虫図鑑 III, pp. 354-355, pl. 60. 保育社.
- 初宿成彦編, 2011. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(1) ゲンゴロウ上科 ゴミムシダマシ科 ナガクチキムシ類. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, (43): 1-197.
- 鈴木知之, 2009. 朽ち木に集まる虫ハンドブック. 88 pp. 文一総合出版, 東京.

（源河正明 286-0015 成田市中台 3-3-18-201）

#### ◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒 102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3 階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>